

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスりん・りん		
○保護者評価実施期間	R7年 10月 1日		～ R7年 10月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	R7年 10月 1日		～ R7年 10月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 10月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別支援計画の質: お子様一人ひとりのニーズや課題を的確に捉えた個別支援計画が作成され、計画に沿った支援が行われている点(質問7, 9, 13で「はい」が100%)。	・朝のミーティングや申し送りで、お子様一人ひとりの状態や配慮事項を共有している。 ・個別支援計画の作成時には、複数の職員で意見を出し合い、多角的な視点で検討している。 ・お子様一人ひとりについて、発達の状態、興味関心、得意なこと、苦手なこと、家庭での様子などを多角的に把握し、それを個別支援計画に反映させています。計画作成時には、複数の職員で意見を出し合い、保護者様の意向もアセスメントシートなどを活用しながら、丁寧に聞き取っています。	・療育の見える化 療育の結果を半年単位で計測し、数値化や動画撮影することで見える化を進めていきます。 成長データやプログラム検証も適時、行っていきます。 結果などを踏まえて個別支援計画の充実に努めます。
2	・職員の専門性と共感的な姿勢: 職員がお子様の特性を深く理解し、専門的かつ共感的に関わっている点(質問5, 17で「はい」が96.4%)。	・保護者様の思いや不安に寄り添い、共感的に受け止めている。 ・専門用語を使わず、分かりやすい言葉で説明している。 ・一方的に支援内容を伝えるのではなく、保護者様の意見や希望を聞き、一緒に考えている。 ・送迎時や連絡帳を通じて、その日の様子を具体的に伝えている。 ・保護者様からの相談や質問には、できるだけ早く、丁寧に応えている。	・職員の成長を可視化する人材育成システムの構築 内部研修。外部研修支援により、職員が継続的に成長できる環境を整備します。
3	・保護者の満足度: お子様安心して通所できていること、支援内容に満足いただいていること(質問27, 29で「はい」が100%)。	・お子様の気持ちを第一に考え、無理強いせず、その子のペースを尊重している。 ・「できた」「頑張った」を見逃さず、すぐに褒めて認めている。 ・活動の中に「楽しい」要素を取り入れ、お子様が自然と参加したくなる工夫をしている。 ・安全管理を徹底しながらも、過度な制限はせず、お子様の挑戦を見守っている。	・広報・情報発信強化 ホームページ・SNSの充実、保護者への情報提供により、事業所の強みを「見える化」し、地域における存在価値を高めます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・物理的環境の改善と活動の工夫。	・活動スペースが手狭で、特に運動には不十分な部分がある。	・事業所内スペースの再検討。 静かに過ごすエリアと、体を動かすエリアのスペースを見直します。可動式のパーテーションなどを活用し、活動内容に応じて柔軟にレイアウトを変更できる工夫を検討します。
2			

--	--	--	--

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもデイサービスりん・りん		公表日		R7年 10月 29日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		当事業所では運動療育、学習療育、社会性療育を基本とする3つの療育を中心に療育を行っています。 ・各療育に合わせて訓練室の使い方を工夫して使用しています。 ・相談室は事務所と隣接して設置しております。	・宿題をしている児童たちと運動をしている児童達との仕切りがあるとより良いのではと思う。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・利用定員の10名を超えることもあるが合わせて保育士、児童指導員等の専門職員を増員し、基準を満たして配置しています。	・あい・サポートリーダーの配置はありません。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	4	・運動療育は部屋を広く使用できるよう備品等の移動、玄関付近の段差にスタッフを配置して安全面に最大限の配慮をしています。	・全ての利用者様にとって安心と信頼を提供できるよう、必要な事があればその都度対応していきたいです。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	・学習療育時は「個々のスペース」を確保して機の配置をしています。 ・イベント等を行う際は広い訓練室を区切ったり、活動内容に合わせて使用しています。	・年数の経過と共に生活汚れが目につくようになり、今後も利用者様に気持ちよく使用していただけるよう、清潔面に関してさらに力を入れていきます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・学習療育時は「個々のスペース」を確保して機の配置をしています。 ・不安定な場合でも相談室やカーテンで仕切ったスペースで落ち着いて過ごせるように努めています。	・運動系の発達支援を行う時間帯は事業所内は活気に溢れた状態であり、どんな時でも個別対応ができるよう、今後も一層努力していきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		・週に1回事業所内のミーティング、月に1回事業所間でのミーティングを行い、多くの職員が参加し業務改善に努めています。	・MTGへまだ参加が出来ていない職員にも今後は参加してもらい、全職員で事業所の課題に向き合っていきたいです。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・アンケートを配布し保護者様の評価やご要望を聞かせて頂いています。ニーズを把握した上で、できる支援等を検討しております。	・職員へ業務改善を共有した後、経過等を追っていきたく思います。改善が必要であれば再度問題解決に向けた検討を行います。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・週に1回事業所内のミーティングで職員からの意見を議題にし業務改善に努めている。	・職員からの意見は貴重であり問題発見にもつながるため、今後もより一層力を入れていくつもりです。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5	・法人内の事業所が集まり、イベントやMTGの場を定期的に設け、他事業所目線からの評価が出来るようにしています。	・現在外部評価は行っておりません。必要であれば検討をしていきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・育成事業への参加、毎週のミーティング、自己学習、虐待防止や感染予防等の研修に加えスタッフの質の向上を目指して外部研修、事業所内、人材育成研修にも力を入れています。	・受講後のフィードバックを報告だけでなく、より多くの職員へ共有し、職員全体の資質向上に向けていきたい。	

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	・個別や専門的な支援計画を作成し、保護者様に確認していただいています。	・個々の状態にあわせて計画案を作成していますが、より深く理解し幅広い支援が出来るように努力を重ねます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	・お電話や送迎時にも保護者の方のご意向を確認をさせていただく場合があります。ご利用児・保護者様のニーズを把握したうえで、個々の特性や成長に合わせた内容で計画案を作成しています。スタッフを交えた支援会議では支援内容を再確認しモニタリングを行っています。個別面談やお電話、送迎時に保護者の方へ説明、交付をしています。	・今後もより良い支援の為、保護者様、利用者様のニーズを正しく把握し、支援者側の意見でまとめる事が無いよう作成していきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	・モニタリングシートはスタッフがいつでも確認できる場所に配置しています。毎月スタッフで様子を振り返り記録を残しています。計画の評価に役立てるようにしています。週に1回事業所内のミーティングや支援会議を通して広く多くの視点で考えるように努めています。	・全支援者が共通視界ができるよう、新人への育成にも力を入れていく必要があります。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	・支援計画に沿って運動療育では集団活動の中でも個々に合わせて指導を行っています。学習療育は個々の特性や必要性に合わせてプログラムを組んでいます。「指示書を理解して作業する。」など将来を見据え作業的訓練も取り入れています。支援計画の作成を「ハグ」にて行う事で電子化、いつでも確認できる環境を整えています。	日頃から支援についての意見交換等は頻繁に行っているが、全体の意見を確認する機会も必要である為、MTGでも情報交換を行ってきたいです。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	・5領域に分かれたアセスメントや専門的支援の観点から行動観察し、モニタリングや評価に反映しています。	・全職員が理解できるよう、研修に取り入れていく事を検討します。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	家族支援、移行支援、地域支援、地域連携を追加した様式で作成し、保護者様に説明していただいています。	・地域支援、地域連携についてはこれから連携できる事業所を増やしていく努力が必要だと思っております。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	・活動プログラムは当日、職員間で話し合い決めています。その中で専門的支援担当者の意見も取り入れながら決定しています。 ・運動療育は個々の体の機能を上げる「体操」、チームや人との関わりを意識させる「バスケットボール」「サッカー」で療育を行っています。当グループオリジナルの運動療育で行った身体機能の成長を動画や数値にして、見える化を進めています。 学習療育は「コグトレ」教材を活用し認知機能の向上を目的としています。基礎学力の土台作りとしてビジョントレーニングを行い認知機能を強化します。マッチング等の手先を使う作業学習、指示書を理解して作業に取り組む、時計の読みやPCを使って文字入力等ご利用者様に合わせ個別対応をしています。社会性療育は地域清掃やお散歩等の事業所外活動、近隣店舗での食事、イベント企画を通して社会での関わりを活動の中で学びます。	・プログラム立案の為、定期的に会議を取り入れていく事を検討中です。

18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・成長に合わせたチームでプログラムを組んでおり、活動内容が固定化しないように複数の療育内容から組み合わせで決定しています。 ・スタッフの専門性も活かした「英語」のプログラムを月1回、実施しています。英語への苦手感などを払拭できるように英語に触れて、楽しめる内容を計画し、実施しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい特性に応じて理解しやすい支援方法で指導できるよう、これからも検討していきます。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動を中心としているが専門的支援の観点から個別対応を適宜行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動では難しい利用者様がおられる為、今後は個別プログラムの充実をすすめていく必要を感じています。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日必ず、支援開始までにその日の活動内容と役割分担を確認し、チームで連携して支援を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の活動内容についてチームでの確認作業は連携が定着しているが、データ化した記録を基により細やかな支援していきたいです。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・支援終了後にグループの担当と管理者で話し合い、良かった点や改善点などを共有し次回の支援に繋げています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援終了後の共有をグループ担当とは行っているが全体共有に努めていきたいです。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供記録に記載し、月に1回モニタリングにまとめ、日々の支援の振り返りに活用しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の利用回数の差で支援データに偏りが出る事があり、検証・改善に難しさを感じる場合があります。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングシートはスタッフがいつでも確認できる場所に配置しています。毎月スタッフで様子を振り返り記録を残しています。計画の評価に役立てるようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見直しの必要が起きる場合は成長が著しい時や方向性が違う事がある為、利用者様の状態を見逃さないようにしていきます。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後・休校日・長期休暇中など日常生活の充実、創作活動、地域交流、余暇活動を意識した内容でプログラムを組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動に加え、新たに自立支援を目的とした内容の活動を取り入れており、今後も幅を広げた内容を企画の強化を図りたいです。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ選択、余暇活動で遊びの選択、活動に関する事等を通して自己決定できる環境を提供しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種活動の中で自己決定、自己選択の機会を取り入れていき、自己決定する力の強化を図っていきます。
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援員からの招集で担当者会議に参加しています。ご利用児の状況に変化等があった場合はこちらからも相談支援員に働きかけをすることがあります。参加する職員は自発管を中心に参加しています。場合によって児童のことをよく理解している職員も含めて参加させていただいています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議への参加に限らず、通常から利用者様の状況やご様子の把握に努めてまいります。
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・医療や基幹相談支援センター等と連携体制として整えております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体制は整えていますが、実際に連携する機会がまだありません。

関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> 各学校で送迎の都度、出来る範囲内で情報共有を行っています。利用児の当日の学校での様子や、デイサービス利用時の問題等を相談させていただく事があります。ご利用児の学校の療育見直し計画書の作成時に当事業所が加わり教員と話し合いの場を設けました。 学校とデイが連携を取りご利用児の学校支援に力添えすることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携がとりにくい学校との連絡調整や情報共有を課題に感じています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> 就学前に所属していた認定こども園さんとの連携や情報共有に努めております。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経験を活かして今後はより一層情報共有、相互理解に努めてまいります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> 担当者会議に参加し、情報共有に努めています。 移行後の問題に関しても電話連絡等で共有し、問題に沿った提案や事例を伝えています。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も求められた際には出来る限りの協力をしていきたいと思っております。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> 各種・育成事業、あい・さかいサポーター育成研修等の機会をいただいております。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も機会がありましたら、積極的に参加させていただきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	7	<ul style="list-style-type: none"> 事業所として交流する機会を設けておりません。 	<ul style="list-style-type: none"> 特性のある利用者様がおられるため、どのような手段で機会を設けるかがまだ課題です。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		8	<ul style="list-style-type: none"> まだ、参加の機会はありません。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後機会がありましたら是非、参加させていただきたいです。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> 毎日の送迎時や電話でのご連絡やご相談などに早めの対応をと心掛けています。ご相談内容によっては複数のスタッフで話し合います。ご相談内容も記録に残しスタッフ全員に周知できるようにしております。これからも保護者の方々にはいつでもお気軽にご相談して頂けるような言葉かけをして行きたいと思っております。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も積極的に保護者様との連携をとり、利用者様の発達や状況理解が出来るように努力していきます。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6	<ul style="list-style-type: none"> ご家族支援プログラム企画として、現在企画案が出ている状態です。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族支援プログラムとして、今後実施していく事が課題です。 	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> 契約時や面談時にご説明しています。出来るだけ分かり易く丁寧に心をかけて行っています。保護者の方からのご質問には不明な点が無いようお答えするようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も一層、わかりやすい説明に努めていきます。 	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> 保護者面談や送迎時、日常の中でご意見等を伺う機会を設けています。 	<ul style="list-style-type: none"> ご利用時に全ての意向を踏まえた内容まで行き届いておりません。 	

38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	・お電話や送迎時にも保護者の方のご意向を確認をさせていただく場合があります。ご利用児・保護者様のニーズを把握したうえで、個々の特性や成長に合わせた内容で計画作成しています。スタッフを交えた支援会議では支援内容を再確認しモニタリングを行っています。個別面談やお電話、送迎時に保護者の方へ説明、交付をしています。	・ご家庭のご都合によりお時間を確保いただくことが難しいと感じる時があります。
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	・毎日の送迎時や電話でのご連絡やご相談などに早めの対応をと心掛けています。ご相談内容によっては複数のスタッフで話し合います。ご相談内容も記録に残しスタッフ全員に周知できるようにしております。これからも保護者の方々にはいつでもお気軽にご相談して頂けるような言葉かけをして行きたいと思えます。	・多くのご家庭からご相談しやすい事業所として認識していただけるよう周知していきたい。
40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	8	・まだ、父母会の実施はできておりません。	・各ご家庭の思いや情報、ニーズを正しく把握し、ご希望に沿った内容で交流の場をご提供できるよう企画、運営を検討中です
41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	・ご意見が挙がった場合は迅速に対応しご納得していただけるよう努力しております。職員へ当日中に周知し再発防止に努めております。	・日頃から職員間の報連相を強化し、早期問題発見、解決に繋げていきたいです。
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	・利用予定表、イベントのご案内を毎月定期的に発行しております。SNSを利用した配信を行っています。公式LINEの活用で定期的にお知らせを発信しています。	・これまでの配信の見直しも行っていき、今後より充実した内容で配信していきます。
43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	・スタッフ入職時に秘密保持誓約書への同意をもらい、利用児や保護者様の個人情報を適切に取り扱っています。利用児の写真等のSNSへの投稿は同意書に承諾をいただき個々に合わせて行っています。	・重要書類の取り扱いについて、職員へ周知徹底をより強化していきます。
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	・個々の特性を理解し、個別対応、視覚的な支援、感覚過敏等に配慮しながら必要に応じて支援を行うようにしております	・集団で活動することが多いので特性に応じた支援、環境への配慮、個別対応にも力を入れて今後も取り組んでいきます。
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	・これまで地域の方々をご招待することは無く、今後は地域との繋がりについても意識して検討していきたいです。	・集合住宅の一部で事業所がございまして、騒音等のご迷惑をおかけしないことを念頭に置いて検討していきます。
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	・毎月のミーティングでスタッフには再確認しています。今後色々な事が想定されることから、勉強会等にも積極的に参加し対応方法を学びスタッフに周知するようにしています。	・通常の活動時に発生する災害について訓練を行っているが、想定外として外出時の非常災害についても視野にいられています。
47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	・毎月ミーティングの中でスタッフに災害時について話し合いをしています。毎月、地震や火災、水害等を想定した避難訓練を利用児を含めて実施しています。	・今後も引き続き、非常災害に向けた実践的な訓練を定期的に行う必要を感じております。
48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	ご契約時に保護者様に確認し、フェイスシートにも記録を残しております。てんかん発作の対応についても職員へ周知しております。	・服薬や予防接種については変更が起きる事がありますので、今後も保護者様と連携を取りながら利用者様の体調管理に努めたいです。

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	・アレルギー情報は初回アセスメントの際に健康情報として保護者様に確認させていただいています。	・食物アレルギーがある利用者様のリストを職員の目につく場所に張り出していますが、定期的に確認作業を行っていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	・利用者様の安全を第一に考えて運営を行うために、年間計画として事業所内外の危険を想定した安全計画を立て、管理を行っています。	・今後もあらゆる方向から安全を意識し、今後も引き続き安全な運営が出来るよう管理を行っていきます。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	・安全計画の面では毎月の訓練の状況を連絡帳等で報告させていただいております。 避難訓練と合わせて、不審者対応にも力を入れ、身を守る練習をしています。	・安全計画としてはご家族様への周知には至っておりません。今後、非常災害の件と重ねてお伝えしていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	・ヒヤリハット報告書で事業所内で情報共有するようにしています。日頃から事故や危険から回避する為に、ヒヤリとした事があった場合はスタッフに周知して事故防止対策として話し合っています。	・ヒヤリハット作成にあたり、その後の追跡として研修等の機会を設け、更なる再発防止に繋げていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	・危険が予想される案件、実際に起きた事例に対し早急にヒヤリハットを作成し全職員へ周知し、再発防止に努めます。	・虐待研修での周知以外でも、日頃から関わり方等について職員へ指導を続けていきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	・危険回避、安全確保、生命保持の為の必要最小限に対しての身体拘束について保護者様へ説明をさせていただいております。利用児の活動中に身体拘束を必要とする事はありません。	・現状、身体拘束を行うことがない状態で関わりを持っており、今後もこのような状態が維持できるよう支援を継続していきたいです。	